
編集後記

昨年の3月11日の東日本大震災の後に聞いた、震源地に最も近かった東北電力女川原子力発電所に関わる話を紹介しましょう。これは、ほとんど報道されてはいないことです。立地計画は昭和43年。主要施設の海面からの高さをどうするかという問題で社内で喧々諤々の議論があり、反対意見もある中で、東北電力元副社長の平井弥之助氏が一人だけ1,200年前の貞観大津波に備えることを強硬に主張され、結局、女川原子力発電所では、海面から14.8mもの高さに造られました。「それ程までにしなくても」と周囲では多くの方が内心思っていたそうです。実際には今回の津波の高さは13mで、しかも、14時46分の地震で1m地盤沈下したため、僅か80cmで救われたということです。この80cmのお陰で、仙台に住む100万人の方が、仙台の地に留まることができたわけで、こうした優れた先人の卓越した見識に感謝したいと思います。

大震災直後には、海面から14.8mもの高さがあるのに、さらに東北電力の方々は大津波の到来までの約1時間に、土嚢を積んで海水の侵入を防いだそうです。この対応は現場の判断だったと思います。そういう動物的感や、何としても守るといった気概が最後は重要になるのだと思います。こうした感性を磨くことや気概を持つことも、大学における知識の伝授、創造性の育成と並び、重要なことではないかと思えます。我々の使命は、国の将来を守るため、困難をも克服し、輝かしい未来を切り開き、真に豊かな社会を創造するため、自分の務めを常に自覚することではないかと思えます。

金井 浩

謝辞

2011年10月1日～2012年9月30日の間に、査読委員外で論文審査を行って頂きました先生方に感謝の意を表し、以下に御氏名を記載致します。

安間 英毅, 市原 周, 奥野 敏隆, 片山 博視, 小松 篤史, 関口 隆三,
瀧 宏文, 田中 秀和, 富松 宏文, 山田 博胤, 和田 靖明

(50音順)

超音波医学
Japanese Journal of
Medical Ultrasonics
第39巻 第6号 (通巻第272号)
© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine
——禁転載——

本体価格 2,100円 (税込み) (本誌購読料は会費に含まれます。)

平成24年11月15日発行

編集者 (社)日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩
発行者 (社)日本超音波医学会 理事長 竹中 克

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1
お茶の水センタービル6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社